

神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室
科学技術グループ 御中



いこーよ

サイエンスかながわ 2025年度 人材育成アンケート 分析結果

アクトインディ株式会社
いこーよ子どもの未来と生きる力研究所
2026年3月

サイエンスかながわ人材育成・アンケート実施概要



項目	詳細									
目的	サイエンスかながわの科学館やサイエンスイベントに参加した子どもの属性や興味関心、体験後の変化などを聞くことで、サイエンスかながわの効果や今後についての検知等を得る									
アンケート対象者	未就学児、小学生、中学生、高校生（集計はサイエンスかながわ対象の小学生以上で実施） ※小学生は保護者のスマホで保護者が回答 ※中学生以上で自分のスマホがある場合はそのスマホで子ども本人が回答									
アンケート実施期間	2025年7月～2026年2月（令和7年度内）									
アンケートの枠組み	2025年度は、以下3種類の調査を実施し、科学体験の子どもの特徴などを把握									
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="428 521 749 648">①科学体験の子ども (N=501)</td> <td data-bbox="749 521 1864 648"> <ul style="list-style-type: none"> サイエンスかながわの施設(科学館等)に来場した子ども、家族にWebアンケート 出口付近のアンケートにアクセスするQRコード等を提示し協力依頼 (2025年7月～2026年2月調査) </td> </tr> </table>	①科学体験の子ども (N=501)	<ul style="list-style-type: none"> サイエンスかながわの施設(科学館等)に来場した子ども、家族にWebアンケート 出口付近のアンケートにアクセスするQRコード等を提示し協力依頼 (2025年7月～2026年2月調査) 							
	①科学体験の子ども (N=501)	<ul style="list-style-type: none"> サイエンスかながわの施設(科学館等)に来場した子ども、家族にWebアンケート 出口付近のアンケートにアクセスするQRコード等を提示し協力依頼 (2025年7月～2026年2月調査) 								
②一般の子ども (N=426)	<ul style="list-style-type: none"> いこーよアンケートモニターにWebアンケート(2025年9月調査) 									
③自然体験の子ども (N=15 参考値)	<ul style="list-style-type: none"> いこーよ四季冒険部体験参加者にWebアンケート(2025年12月～2026年1月調査) 									
2025年度実施施設・イベント	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="428 823 749 874">Murabo!(村田製作所)</td> <td data-bbox="749 823 1394 874">ニュースパーク(日本新聞博物館)</td> <td data-bbox="1394 823 1864 874">はまぎんこども宇宙科学館</td> </tr> <tr> <td data-bbox="428 874 749 904">ミットヨ測定博物館</td> <td data-bbox="749 874 1394 904">川崎市地球温暖化防止活動推進センター</td> <td data-bbox="1394 874 1864 904">いこーよサイエンスフェスタ参加者</td> </tr> <tr> <td data-bbox="428 904 749 933">シルク博物館</td> <td data-bbox="749 904 1864 933">サイエンスかながわデジタルスタンプラリー(NFT)参加者</td> <td></td> </tr> </table> <p>※上記ご協力により、今年度は501s回収、291s集計を実現(昨年度は155s回収、117s集計)</p>	Murabo!(村田製作所)	ニュースパーク(日本新聞博物館)	はまぎんこども宇宙科学館	ミットヨ測定博物館	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	いこーよサイエンスフェスタ参加者	シルク博物館	サイエンスかながわデジタルスタンプラリー(NFT)参加者	
Murabo!(村田製作所)	ニュースパーク(日本新聞博物館)	はまぎんこども宇宙科学館								
ミットヨ測定博物館	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	いこーよサイエンスフェスタ参加者								
シルク博物館	サイエンスかながわデジタルスタンプラリー(NFT)参加者									
調査分析・監修	<p>調査分析:いこーよ子どもの未来と生きる力研究所 監修 :横浜国立大学教育学部 久保尊洋先生</p>									

子どものプロフィール

科学体験の子ども (N=291)

性別	
男性	57%
女性	43%

学年 ※()内は昨年度調査の数字	
小学1年生	16% (17%)
小学2年生	13% (25%)
小学3年生	20% (18%)
小学4年生	21% (17%)
小学5年生	14% (14%)
小学6年生	9% (5%)
中学生	5% (5%)
高校生	2% (0%)

地域
神奈川県を中心に首都圏

一般の子ども (N=426)

性別	
男性	49%
女性	50%
その他・回答しない	1%

学年	
小学1年生	18%
小学2年生	19%
小学3年生	22%
小学4年生	13%
小学5年生	11%
小学6年生	8%
中学生	6%
高校生	3%

地域
全国

(参考) 自然体験の子ども (N=15)

性別	
男性	27%
女性	73%

学年	
小学1年生	7%
小学2年生	7%
小学3年生	36%
小学4年生	36%
小学5年生	14%
小学6年生	0%
中学生	0%
高校生	0%

地域
埼玉を中心に首都圏

調査結果概要

①科学体験の子どもの特徴

- 科学体験の子どもの科学好きが顕著。さらに、一般の子どもに比べて全体的に興味範囲が広い傾向。
- 一般の子どものうち科学体験が直近1年で0回の子どもは、興味が「動画」に集中。
- 科学体験の子どもは一般の子どもと比較して情熱項目が全般的に高い。一方、直近1年で科学体験0回の子どもは、情熱項目も低い傾向。

②科学体験に自発的な子どもの特徴

- 科学体験に自発的な子どもは、科学分野の中でも特に「科学実験」「天文・宇宙等」「ロボット・プログラミング等」への興味が高い。
- 科学体験に自発的な子どもは、非自発的な子どもに比べて「一番好きな活動は興味を持つきっかけを与えてくれる」「一番好きな活動は、学校や家でやらないといけないことと両立している」「普段から自分でやりたいことを選んでいる」という実感が高いのが特徴。
- 好きな活動で興味が広がった経験や自己決定経験、自己管理実感が自発性を生んでいる可能性が考えられる。

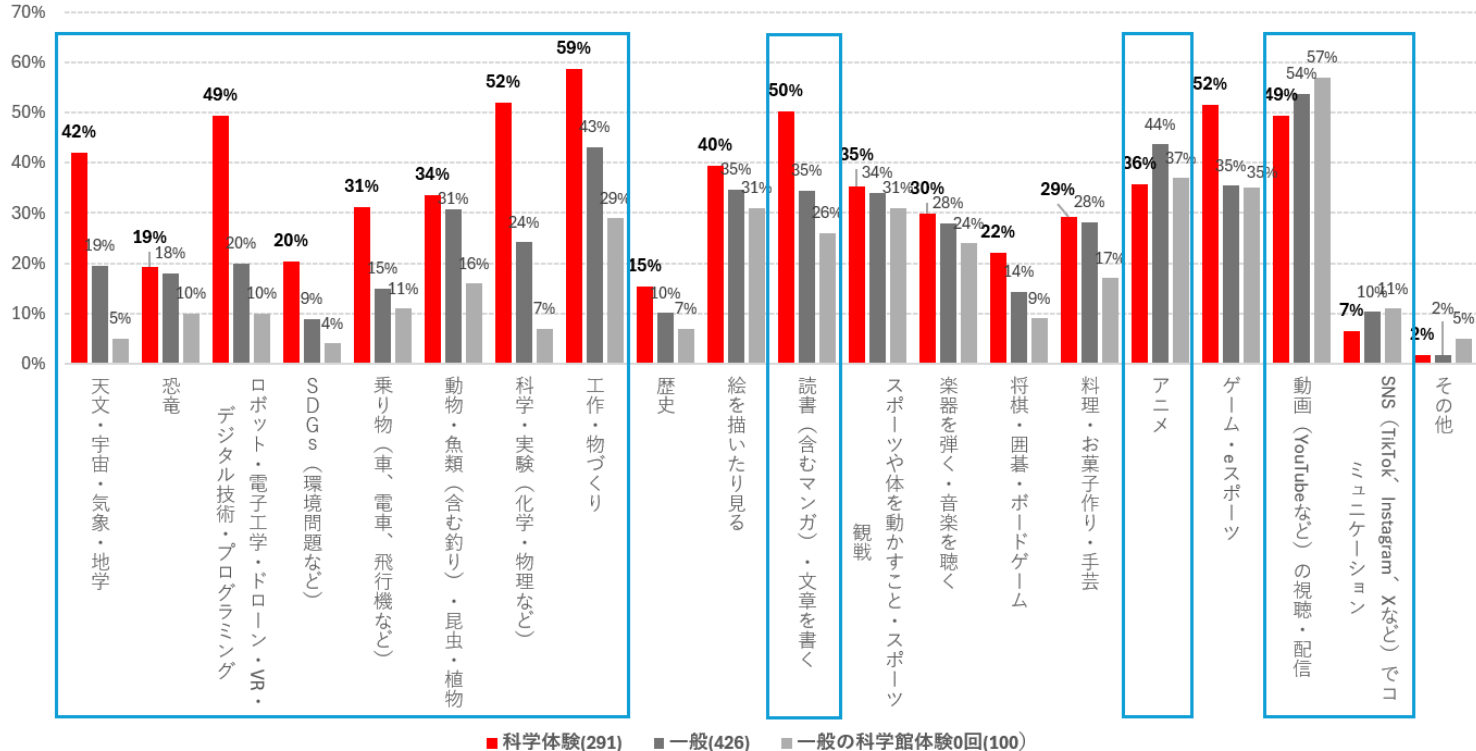
③情熱項目の高い子どもの特徴

- 自発性に関連性があると思われる情熱項目のスコアの高低の差により、子どもの属性に違いがあるか分析した。
- その結果、性別と地域についてはほぼ差がなかったが、学年（年齢）については差があった。
- 「興味きっかけ実感」や「やりたいこととの両立実感」、「自己管理実感」の各項目で、高得点層で低学年の比率が高く、低中得点層で高学年の比率が高くなる傾向がある。つまり、学年があがると「情熱」が薄れていく傾向がみられる。

①-1 科学体験の子どもの特徴「興味」

- 科学体験の子どもの**科学好きが顕著**。科学以外では読書でも差がある
- 一般の子どもに比べて**科学体験の子どもは全体的に興味幅広い傾向**
- 一般の子どもの方が興味が高いのは、アニメ、動画、SNSのみ

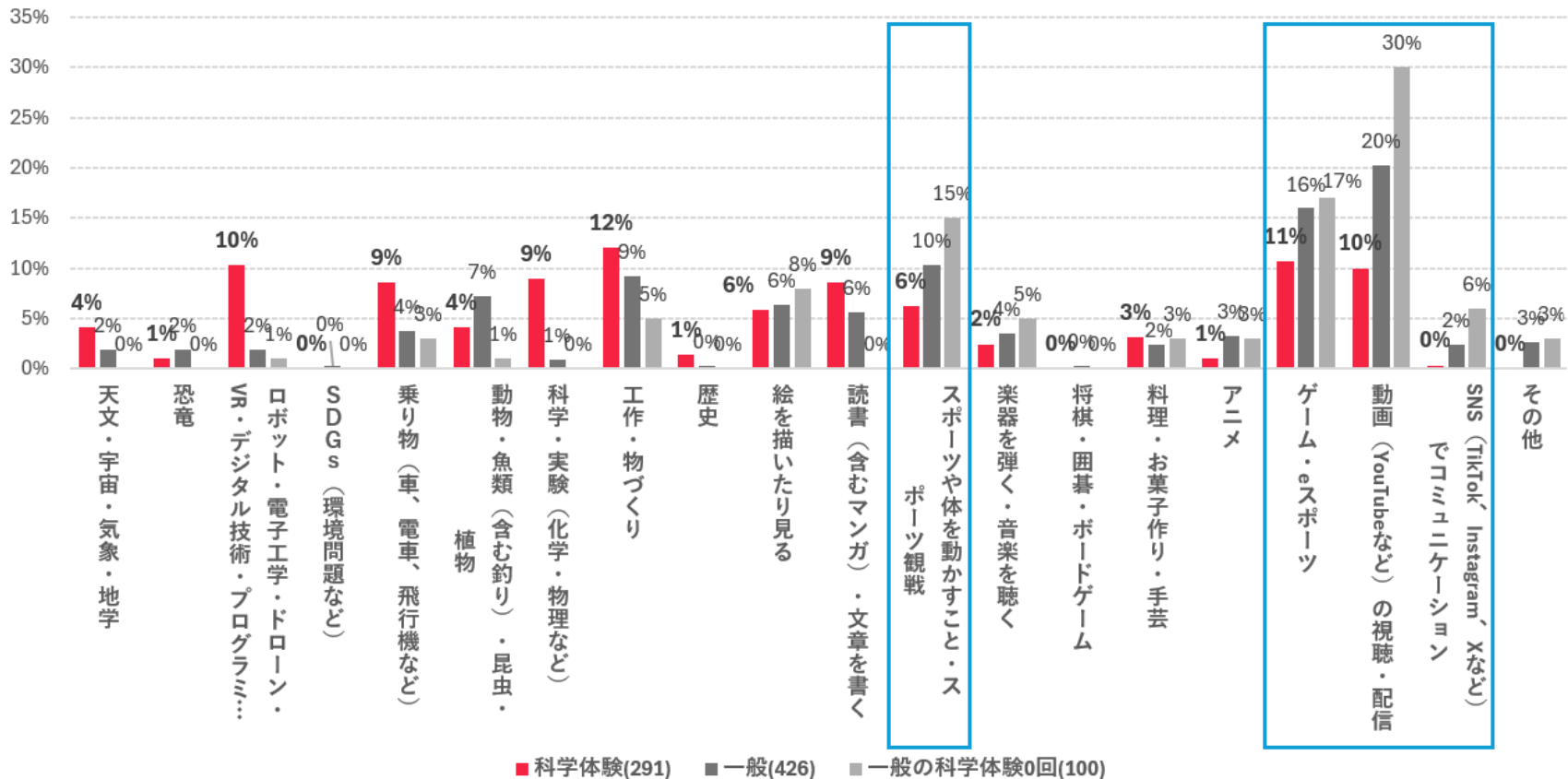
科学体験の子どもの興味分野（一般の子どもとの比較）



①-2 科学体験の子どもの特徴「興味(最も)」

- 「最も興味がある」ものでは、一般の子ども、特に科学体験0回の子どもの動画、ゲーム等、スポーツに集中している傾向

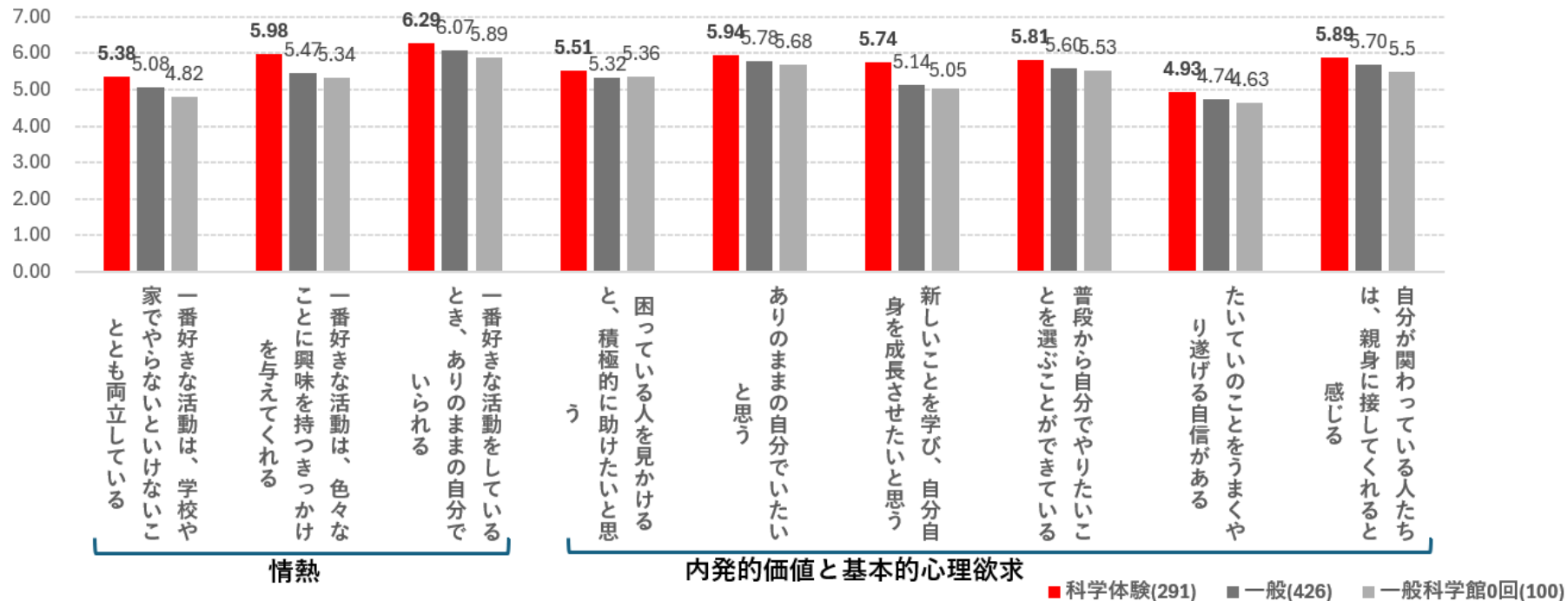
科学体験の子どもの最も興味がある分野（一般の子どもとの比較）



①-3 科学体験の子どもの特徴「情熱」

- 科学体験の子どもの情熱項目が、一般の子どもの数値と比較して**全般的に高い**
- 直近1年で科学体験0回の子どもは、情熱項目も低い傾向

子どもの情熱（一般の子どもと比較）

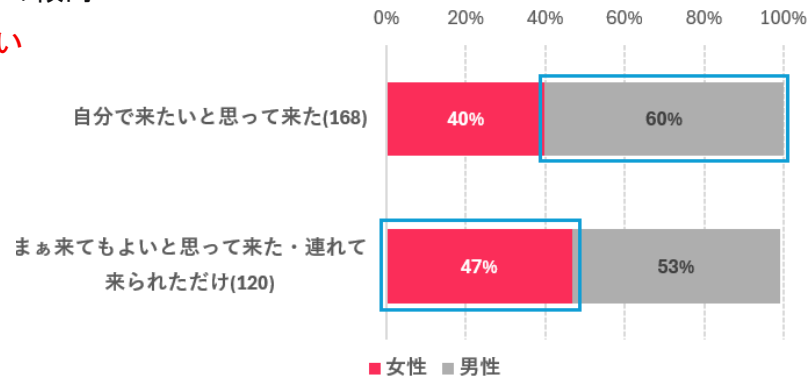


※平均値は、7つの選択肢のうち、最上位の「非常にあてはまる」を7点、最下位の「全くあてはまらない」を1点として算出

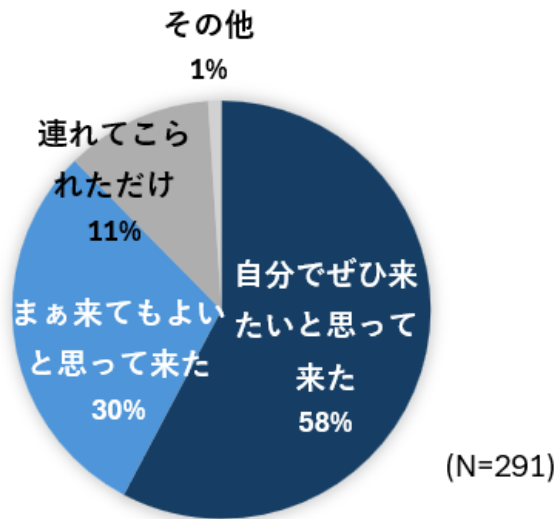
②-1 科学体験に自発的な子どもの特徴（性別や学年）

- 自発的に科学体験に参加している子どもの特徴について分析した
- 科学体験への自発性が低い層で、女性の子どもの比率がやや高め傾向
- 学年では、科学体験への自発性の高い層で小学4年生の割合が高い

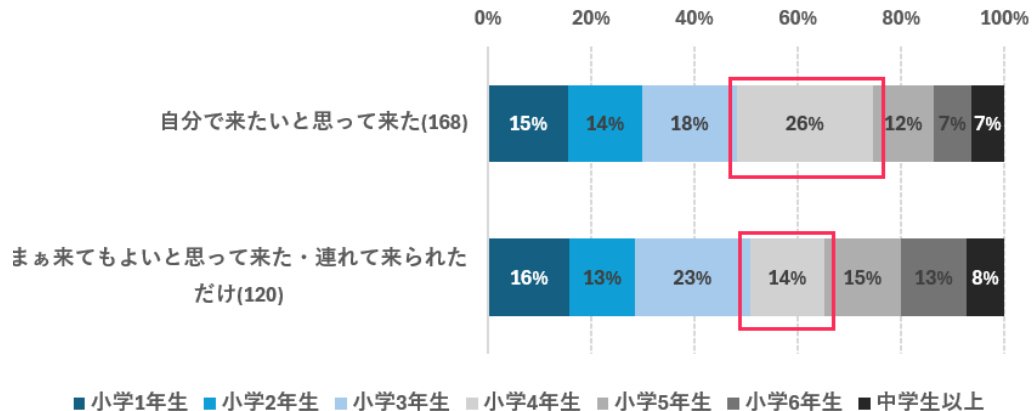
科学館訪問への自発性と性別



科学館訪問への自発性



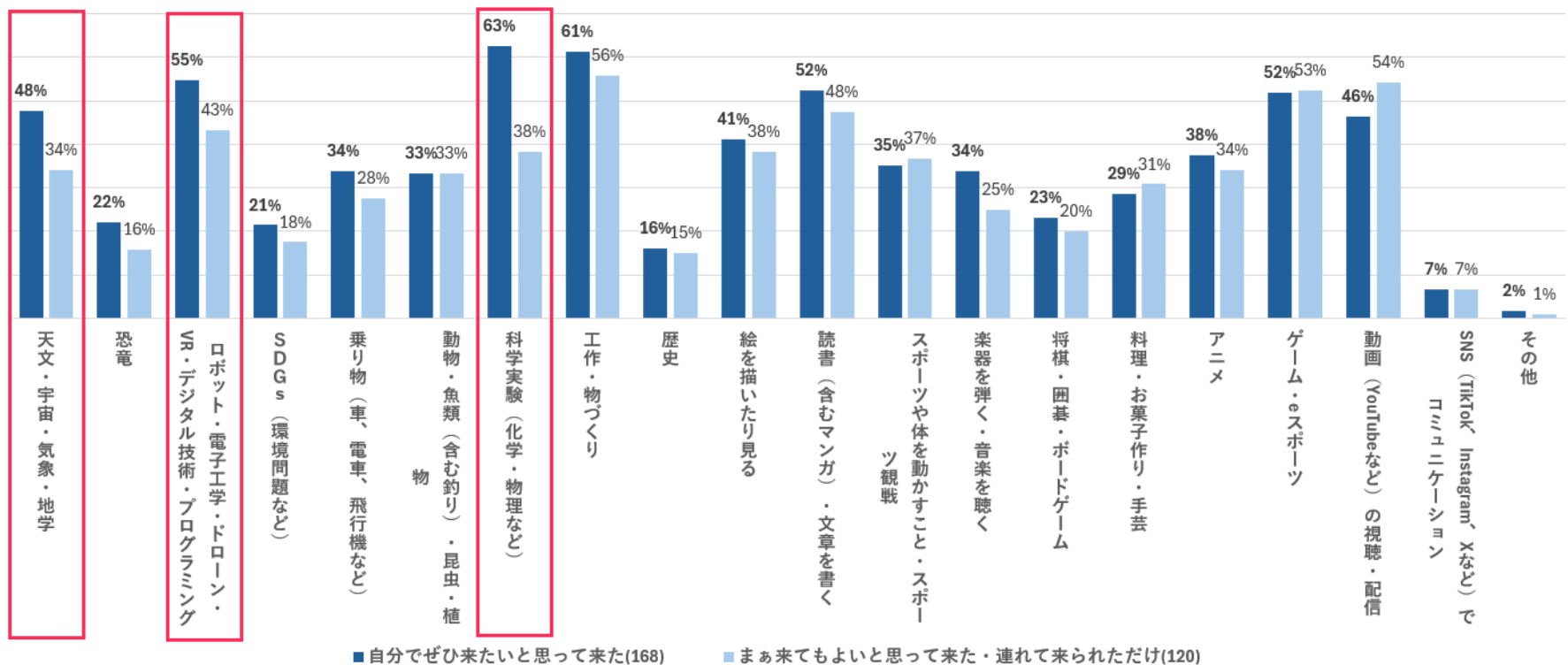
科学体験への自発性別の子どもの学年



②-2 科学体験に自発的な子どもの特徴（興味分野）

- 科学体験への自発性が高い子どもは、**科学分野の中でも特に「科学実験」「天文・宇宙等」「ロボット・プログラミング等」への興味が高い**

科学体験の子どもの興味（科学館等訪問の自発性有無別）



②-3 科学体験に自発的な子どもの特徴（自発性と情熱・内発的価値・基本的心理欲求との関係）

- 科学体験に自発的な子どもの「情熱項目」についての違いを見てみた。
- 科学体験に自発的な子どもは、非自発的な子どもに比べて「一番好きな活動は、学校や家でやらないといけないことと両立している」「一番好きな活動は興味を持つきっかけを与えてくれる」「普段から自分でやりたいことを選んでいる」という実感が高いのが特徴
- **好きな活動で興味が広がった経験や自己管理実感、自己決定実感が自発性を生んでいる可能性がある**

科学体験への自発性の有無と情熱項目



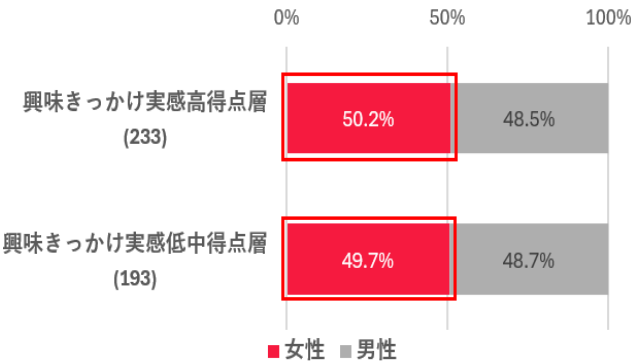
※数値は「自分で来たいと思って来た」と回答したサンプルの各情熱項目の平均値から、「まあ来てよかった+連れて来られただけ」と回答したサンプルの各項目の平均値を引いたスコア

※平均値は、7つの選択肢のうち、最上位の「非常にあてはまる」を7点、最下位の「全くあてはまらない」を1点として算出

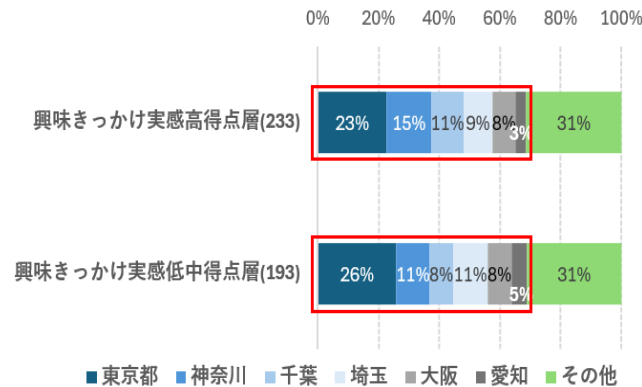
③-1 情熱項目の高い子どもの特徴（性別、地域、学年 一般の子どもの調査から）

- 自発性に関連性があると思われる情熱項目の高低の差による子どもの属性の差を知るため、科学体験だけでなく、一般の子どもの調査データを使用し分析（ここでは「興味きっかけ」のデータを表示）
- 性別、地域では差がない
- 学年があがると「情熱」が薄れていく傾向がみられる。

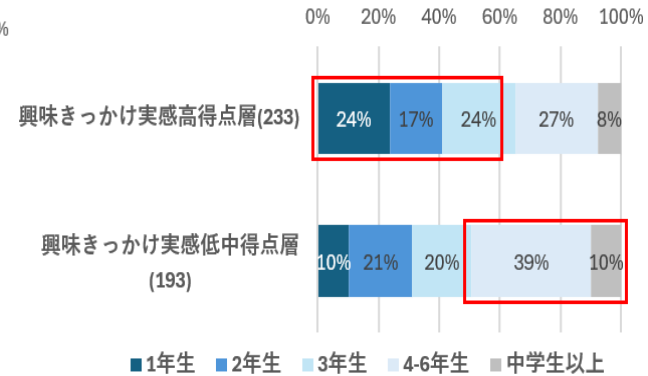
一番好きな活動は色々なことに興味を持つきっかけを与えてくれる



一番好きな活動は色々なことに興味を持つきっかけを与えてくれる



一番好きな活動はいろいろなことに興味を持つきっかけを与えてくれる



※高得点層は各項目の「非常に当てはまる」「だいたい当てはまる」の上位2選択肢を回答した層、低得点層は「少し当てはまる」～「全く当てはまらない」の中下位の5選択肢を回答した層

日本発達心理学会 ポスター発表参加について

日本発達心理学会第37回大会(福岡, 5AM1-PS14, 2026/3/3)



子どもの体験活動が学びに結びつく要因の検討

○横目美代子(アクトインディ株式会社)・久保孝洋(横浜国立大学)

1.問題

こどもの体験活動がより深い学びに結びつくには？

✓「体験格差」の拡大やゲーム・SNS等の娯楽活動の比重増大が課題
(公益社団法人キッズ・フォー・ユース, 2023; 文部科学省, 2021, 2023)

✓体験活動(興味関心, 習い事, 日中の外出など)をより深い学びや成長実感へと繋げる環境・個人要因の解明を必要とする

2.目的

1. 子どもの体験活動の実態(興味・習い事・外出等)と学び・成長実感との関連を探索的に検討する
2. 体験活動への自発的関与と心理的要因(情熱, 基本的心理欲求)が学びの質にどのように影響するかを明らかにする

3.方法

調査対象
科学体験活動に参加した児童生徒117名
(小学低学年70名, 小学高学年42名, 中学生5名)

調査方法
保護者のスマートフォンを通じたオンライン調査
(小学生以下は聞き取り・代理回答)

質問内容

✓基礎属性, 興味関心, 科学体験への自発的参加の有無
✓体験後の学び・成長実感(4件法)
✓心理的指標として情熱, 内発的価値, 基本的心理欲求(各7件法)

4.結果

① 興味関心の実態

工作・物作り(53%)や科学・実験(45%)への関心が高い一方, デジタル(ゲーム)41%, 動画52%)への関心も高い

天文・宇宙・気象・地学	36%	読書(含むマンガ), 文章を書く	44%
音楽	24%	スポーツや体を動かすこと, スーツやダンス	41%
ロボット・電子工学・ドローン・VR・プログラミング	35%	楽器を弾く・音楽を聴く	26%
SDGs(環境問題など)	13%	料理・園芸・ボードゲーム	16%
乗り物(車・電車・飛行機など)	15%	料理・お菓子作り・茶道	26%
動物・魚類(含む釣り)・昆虫	35%	アニメ	44%
植物	35%	ゲーム・おスポーツ	41%
科学・実験(化学・物理など)	45%	工作・物づくり	53%
歴史	13%	動画(YouTubeなど)	52%
絵を描いたり作る	39%	SNS(TikTok/Instagram/X等)	37%
絵を揃いたり見る	39%	その他	3%

② ①の興味関心に対する情熱の状況

「一番好きな活動中にあるままの自分であられる」が9割超

5以上合計	96%
一番好きな活動は, 学校や家でやらないといけないことも同じしている	77%
一番好きな活動は, 色々なことに興味を持つきっかけを与えてくれる	88%
一番好きな活動をしているとき, ありのままの自分であられる	96%

③ 自発的参加による学びの差異

体験への自発参加群は, 同伴/助賛参加群に比べ, 新しい発見実感や将来進路参考実感が有意に高い

	自発参加群	同伴/助賛参加群	
新しい発見実感	3.63 ± 0.49	3.39 ± 0.59	(t(115) = 2.15, p = .036, d = 0.40)
将来の進路参考実感	3.01 ± 0.76	2.53 ± 0.76	(t(116) = 3.21, p = .002, d = 0.83)

④ 心理的要因(情熱など)による学びの差異

情熱が高い子どもは自己成長意欲が有意に高い

	情熱が高い以下	情熱が高い以上	
自己成長意欲	5.06 ± 1.19	5.39 ± 1.04	(t(102) = 4.34, p < .001, d = 0.84)
自己選択実感	5.06 ± 1.19	5.10 ± 1.15	(t(104) = 0.17, p = .862, d = 0.03)

興味関心領域が多い子どもは自己成長意欲が高い傾向
(t(2) = 1.91, p = .146)

	1-3割群	4-6割群	7割以上群
自己成長意欲	5.37 ± 1.19	5.49 ± 1.27	5.87 ± 1.09

興味関心領域が多い子どもは自己選択実感が高い傾向
(t(202) = 1.85, p = .064, d = 0.20)

	興味関心4割以下	興味関心7割以上
自己選択実感	5.62 ± 1.10	5.96 ± 1.17

5.考察

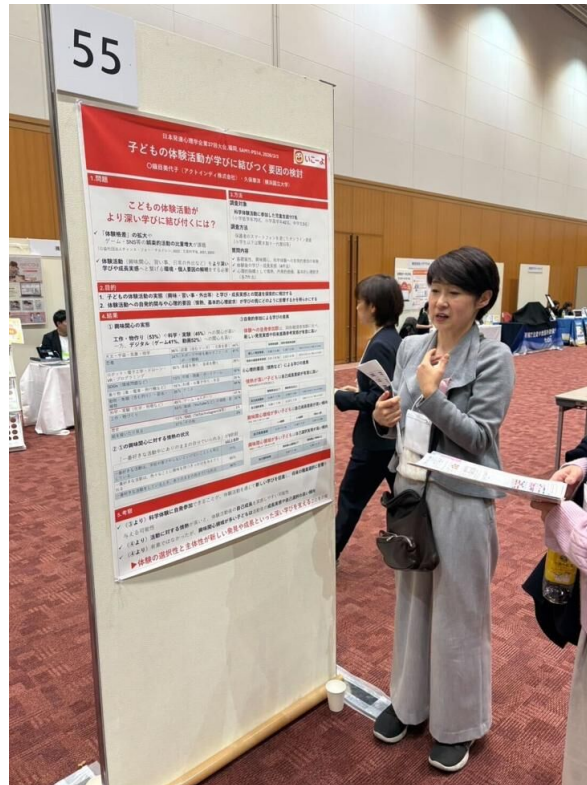
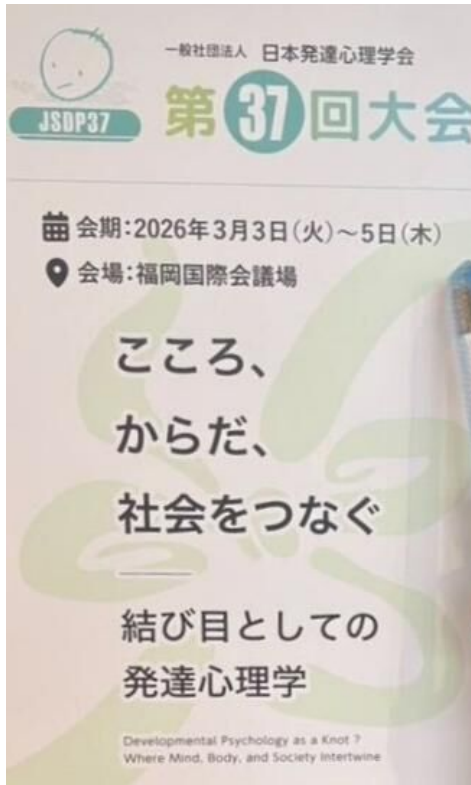
✓(③より)科学体験に自発参加できることが, 体験活動を通じて新しい学びを促進し, 将来の職業選択に影響を与える可能性

✓(④より)活動に対する情熱が高いと, 体験活動後の自己成長を実感しやすい可能性

✓(④より)有意ではなかったが, 興味関心領域が多い子どもは活動後の成長実感や自己選択の高い傾向

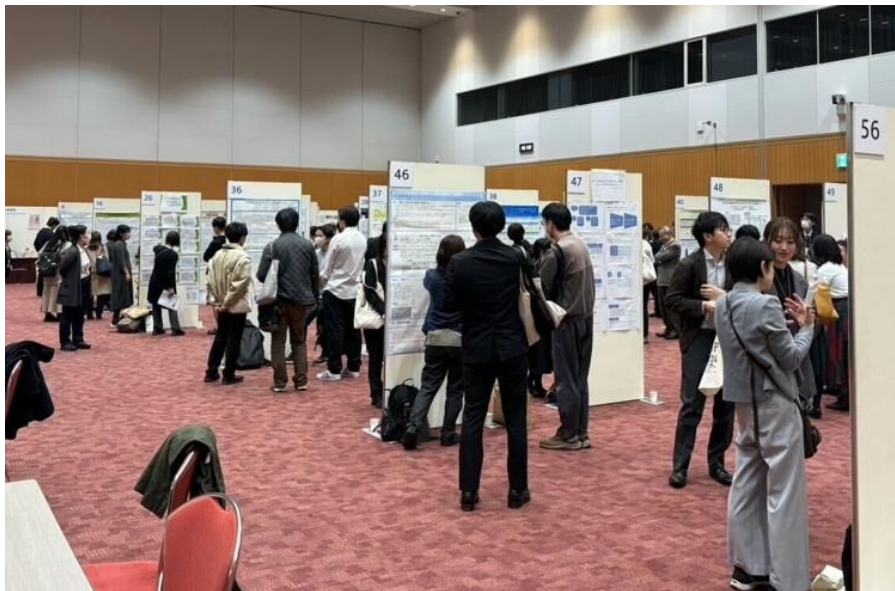
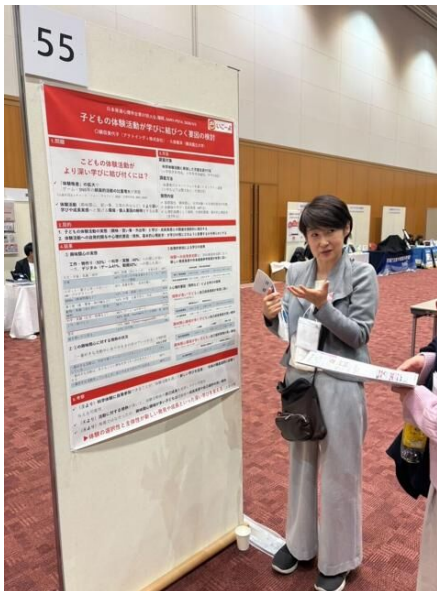
▶ 体験の選択性と主体性が新しい発見や成長といった深い学びを支えることを示唆

- 「サイエスかながわ人材育成アンケート」の2024年度の結果を日本発達心理学会第37回大会@福岡にてポスター発表(学会開催日:2026年3月3日~5日)
- 全国の心理学・教育学関係の大学教員, 学生, 一般企業の研究員などの多くの参加者に興味を持っていただき, 発表時間中, 来訪が絶えない状況となった



ブース訪問者からのフィードバック

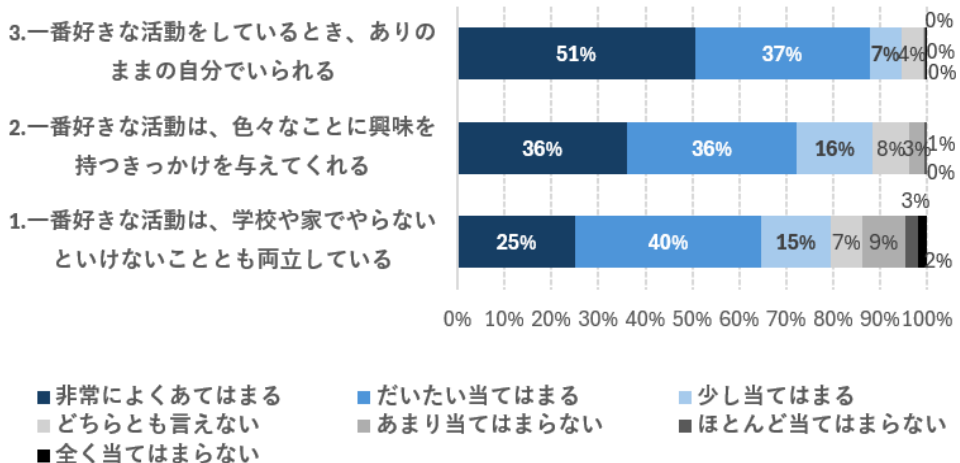
- 「体験」「科学体験」「体験格差」というワードや研究自体に非常に興味を持った
- なぜ「科学体験」に着目したのか？（神奈川県が「サイエンスかながわ」を実施している旨を説明）
- 科学館業界では体験の要素が強まっている一方で、**体験ばかりで学びにつながらない状況**に陥っている感がある。その道筋を示しうる**重要な研究**だと感じた
- 調査結果を知って、**自発参加していない子どもにどのような体験を提供して興味を持ってもらうかが課題**と感じた
- 今後の研究の進展がとても楽しみです
- 自科学館の**館内調査システム**をこの調査・研究にぜひ活用してほしい（日本科学未来館@お台場）



分析結果 補足データ・資料

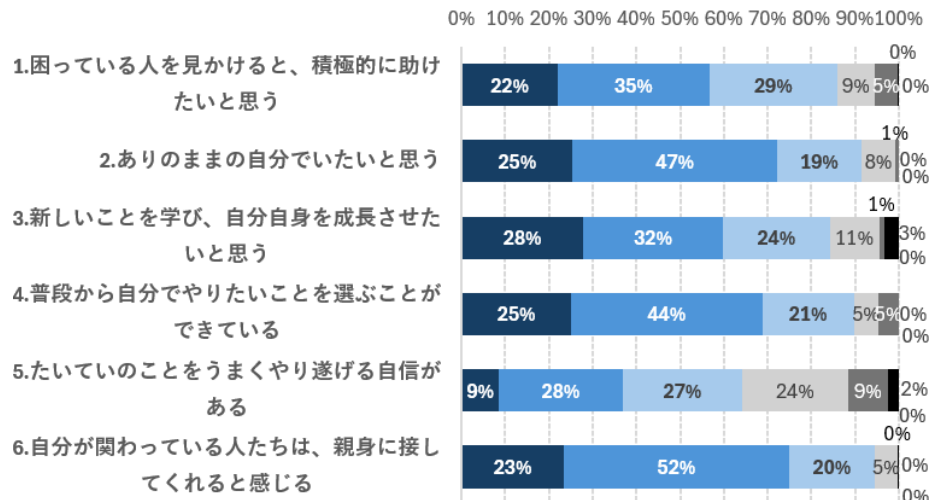
- 情熱項目では、科学体験の子どもの情熱では、昨年同様「一番好きな活動をしているとき、ありのままでいられる」の項目で当てはまると回答した子どもが**95%**となった
- 基本的心理欲求の項目でも、昨年同様「たいていのことをうまくやり遂げる自信がある」のみ低めで、それ以外の項目は「当てはまる」という子どもが9割を占める

科学体験の子どもの情熱



- 非常によくあてはまる
- だいたい当てはまる
- 少し当てはまる
- どちらとも言えない
- あまり当てはまらない
- ほとんど当てはまらない
- 全く当てはまらない

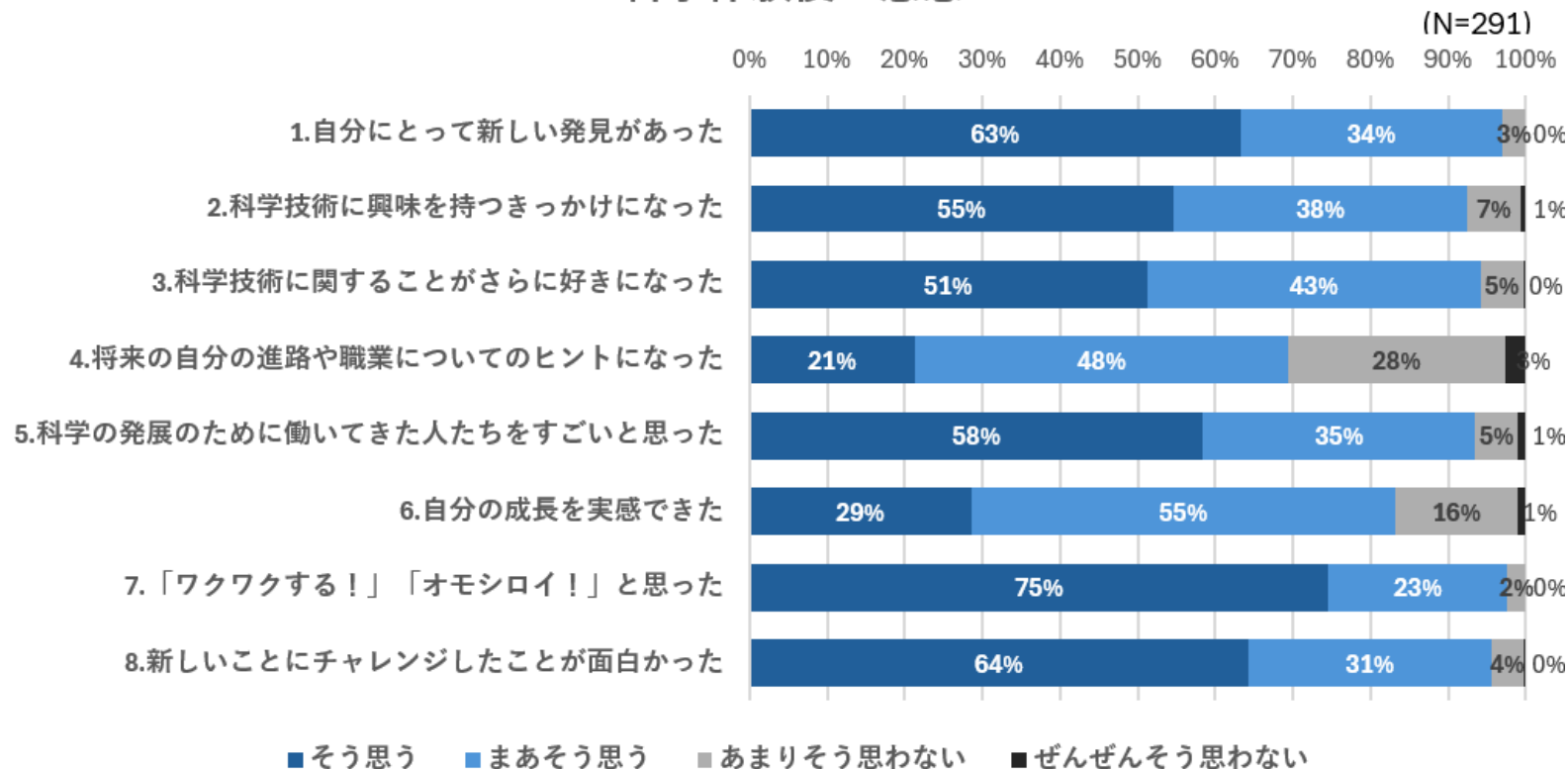
科学体験の子どもの基本的心理欲求



- 非常によく当てはまる
- だいたい当てはまる
- 少し当てはまる
- どちらとも言えない
- あまり当てはまらない
- ほとんど当てはまらない
- 全く当てはまらない

- 科学体験後の実感を聞いた設問では、「自分にとって新しい発見があった」「ワクワクする、オモシロイ」のスコアが高い

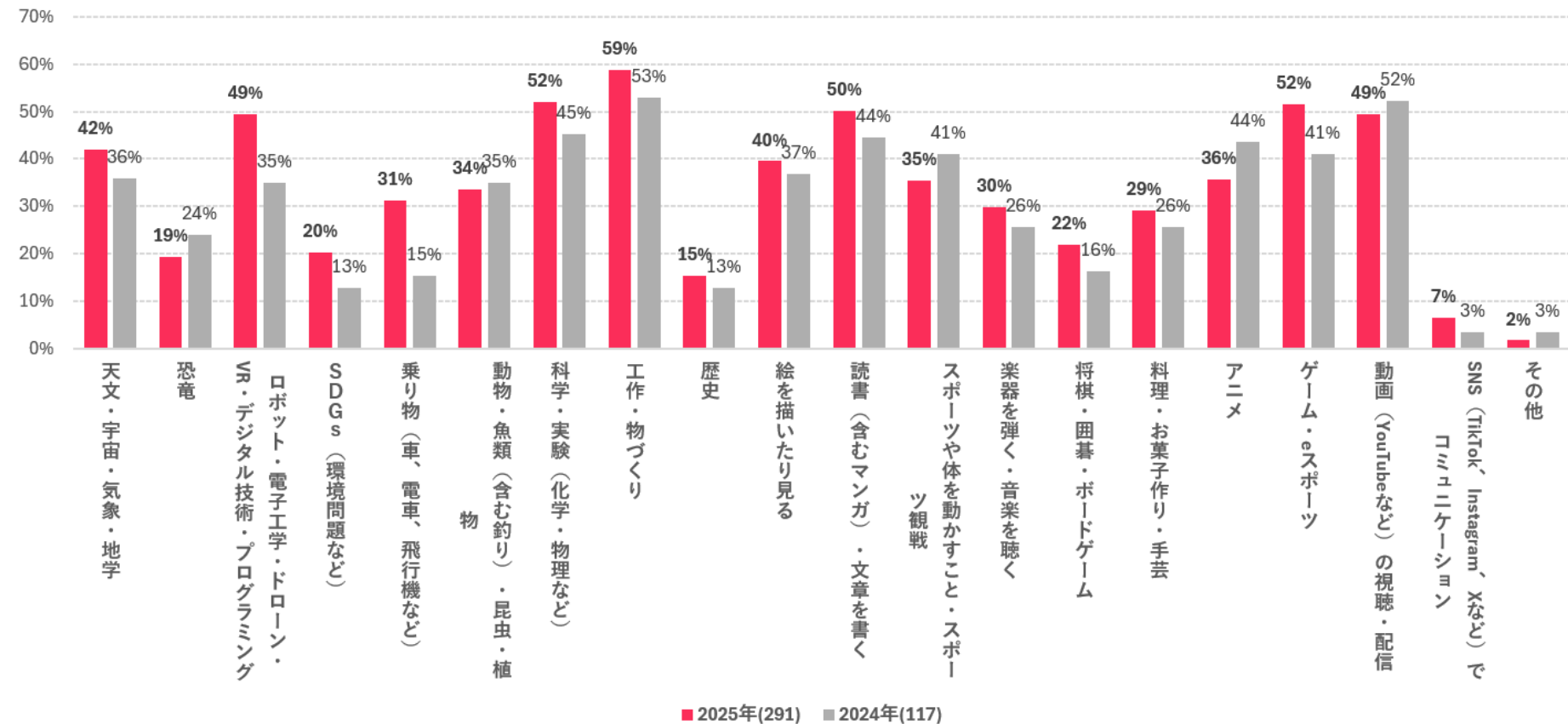
科学体験後の感想



科学体験の子どもの興味分野の昨年比

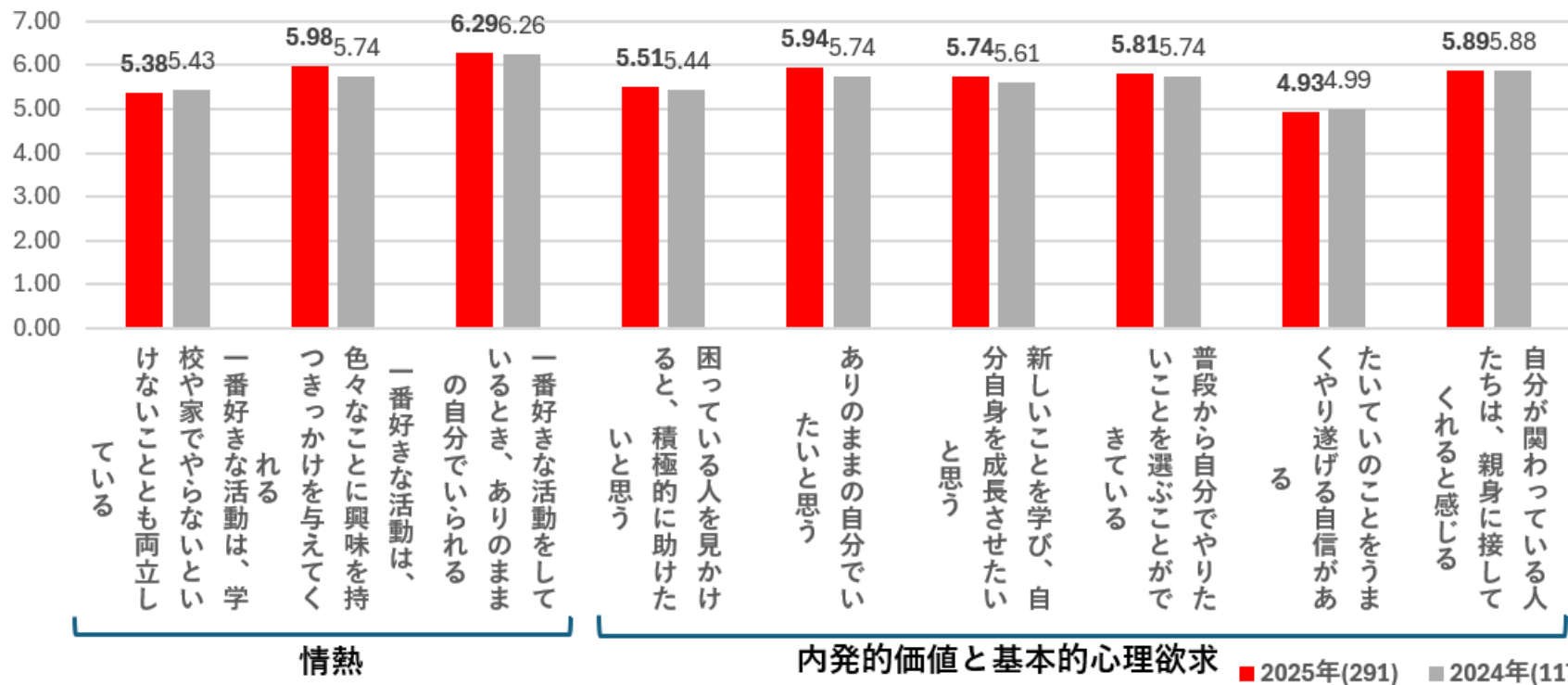
- 科学体験の子どもの興味について、昨年と比較しても「ロボット・プログラミング等」「乗り物」以外は**大きな差はない**

科学体験の子どもの興味分野（時系列）



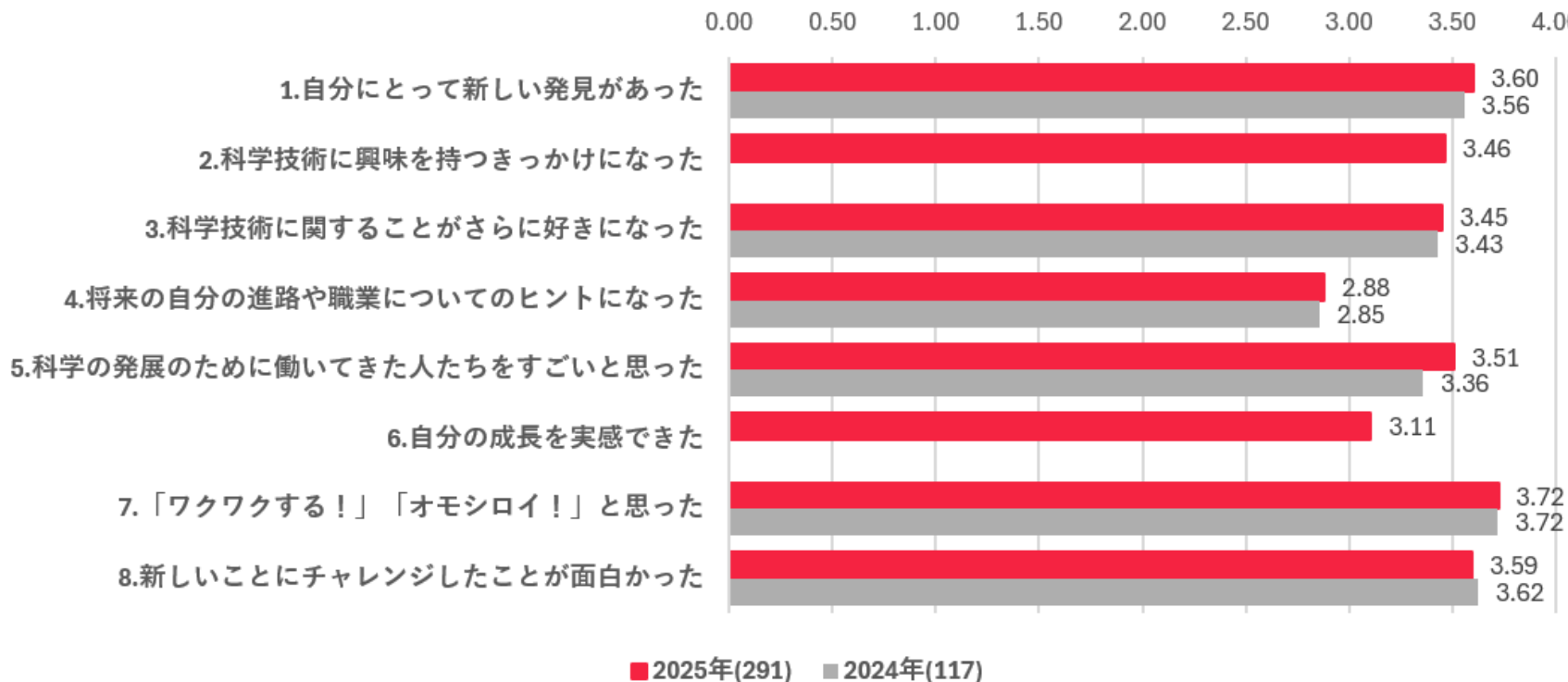
- 科学体験の子どもの「情熱」項目を昨年を昨年と比べたが、**大きな変化はない**

科学体験の子どもの情熱（時系列）



- 科学体験の子どもの体験後の実感を聞いた設問を昨年と比較。「自分にとって新しい発見があった」「ワクワクする、オモシロイ」のスコアが高いのは**昨年同様**

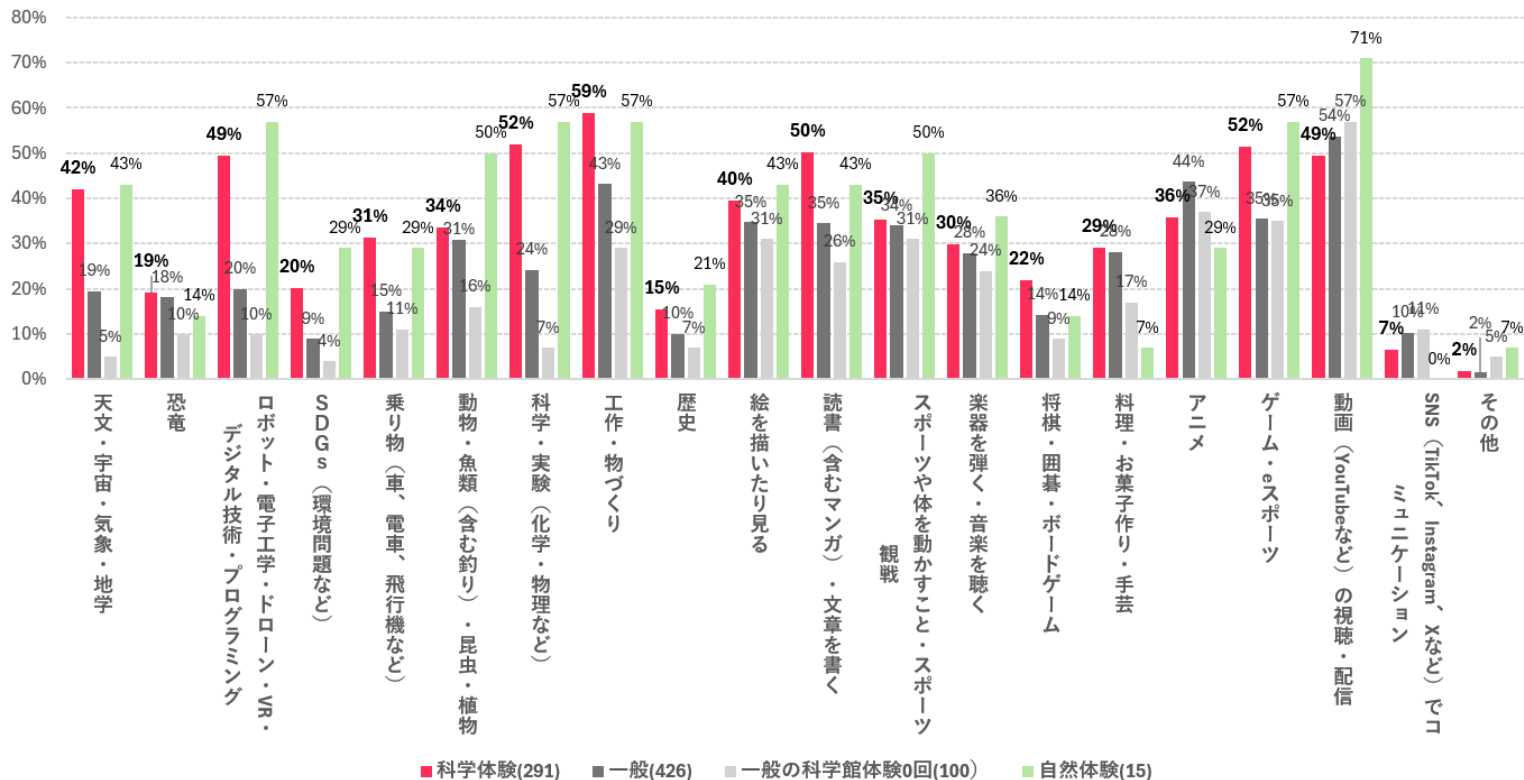
体験後の感想（時系列）



自然体験を含めた子どもの興味分野の比較

- 他の体験をした子どもと比較するため、自然体験の子どもにも調査し比較
- 調査対象が有料の自然体験プログラム（いこーよ四季冒険部）参加者だったこともあり、**自然体験の子どもも**、科学体験の子どもと同じ程度以上の**広い興味の幅がある**という結果となった

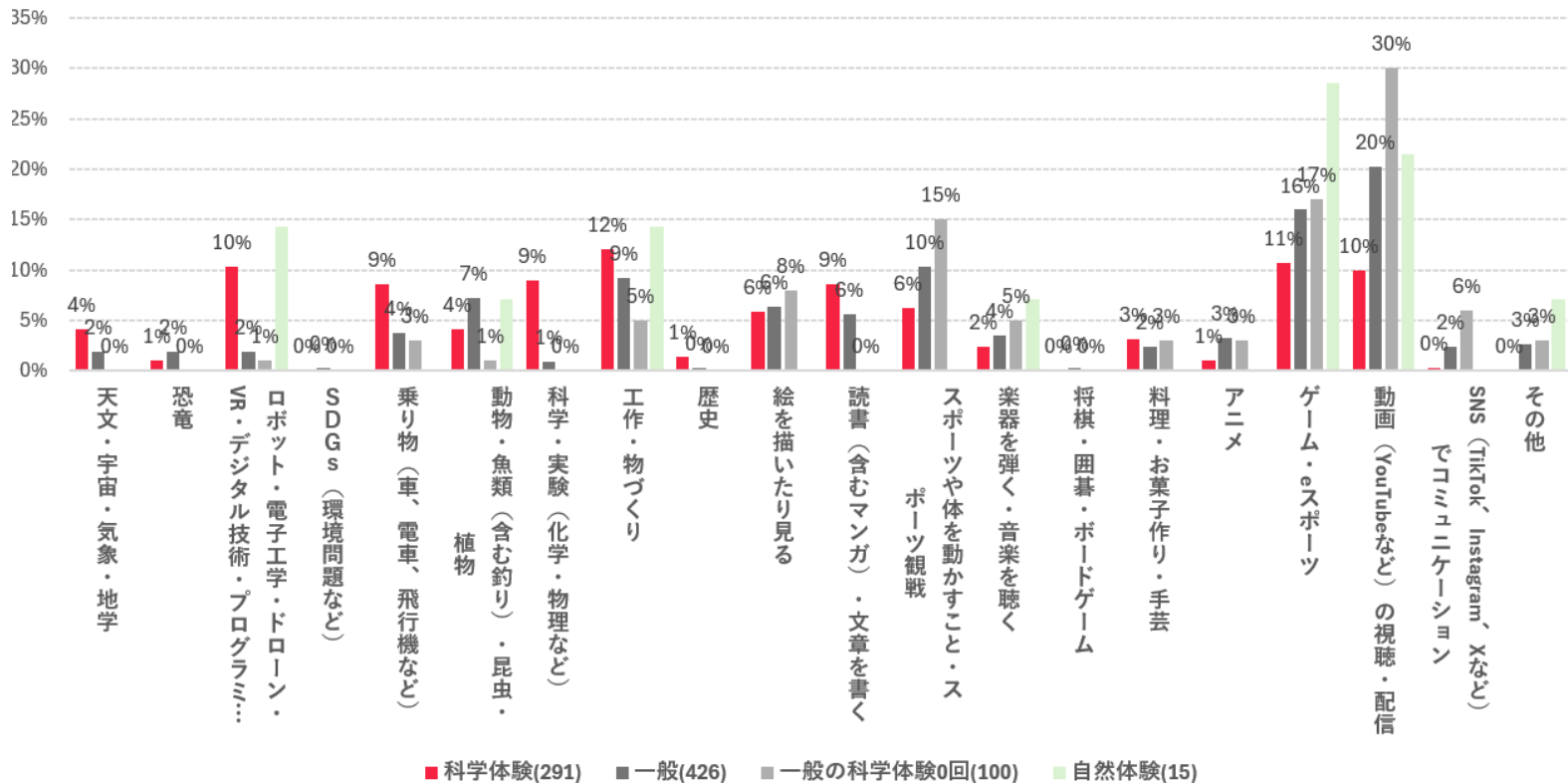
子どもの興味分野(自然体験の子どもも含めた比較)



自然体験を含めた子どもの興味分野（最も）の比較

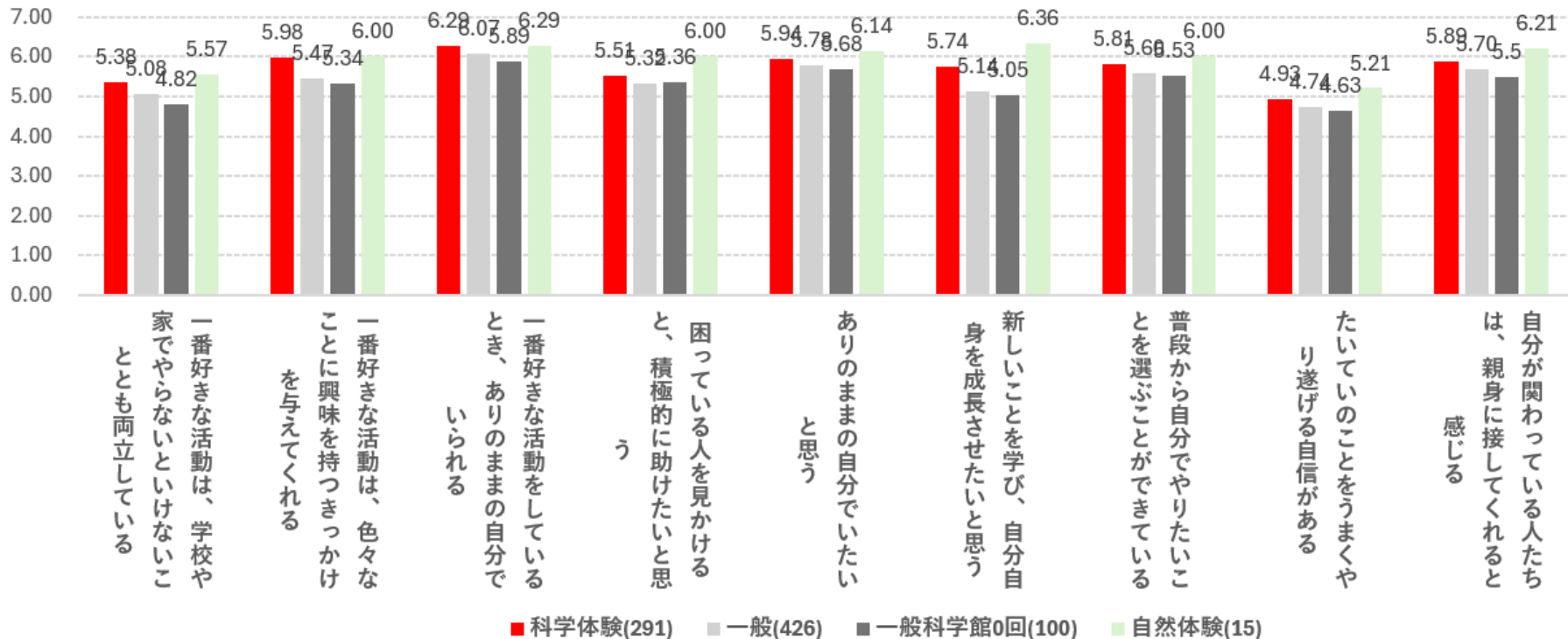
- 最も興味がある分野を1つだけ選ぶ設問では、科学体験の子どもでは低かった「ゲーム等」や「動画」について自然体験の子どもは高い関心を示しているという結果となった

子どもの最も興味がある分野（自然体験の子どもも含めた比較）



- 子どもの「情熱」項目でも、一般の子どもと比べて**科学体験**と**自然体験**の子どもが高い傾向

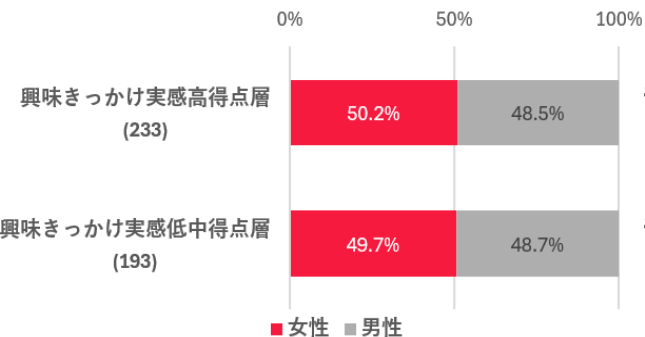
子どもの情熱（自然体験の子どもも含めた比較）



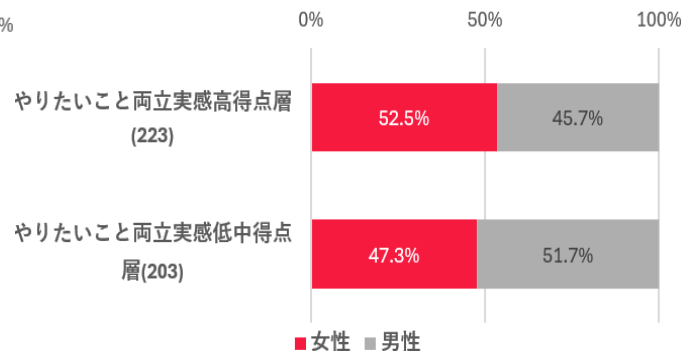
情熱項目の高い子どもの特徴（性別 一般の子どもの調査から）

- 「一番好きな活動はいろいろなことに興味を持つきっかけを与えてくれる（興味きっかけ実感）」「一番好きな活動は学校や家でやらないこと両立している（やりたいこと両立実感）」「普段から自分でやりたいことを選んでいる（自己選択実感）」の3項目について、回答が高得点だった子どもと低得点だった子どもに分けて性別、学年（年齢）、地域について分析した
- まず、性別についてはほぼ差がなく、「自己選択実感」のみ、高得点層で女性の比率がやや高い

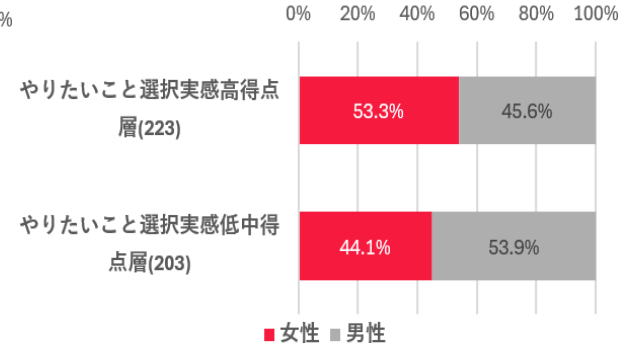
一番好きな活動は色々なことに興味を持つ
きっかけを与えてくれる



一番好きな活動は学校や家でやらないといけ
ないことと両立している



普段から自分でやりたいことを選ぶこと
ができています

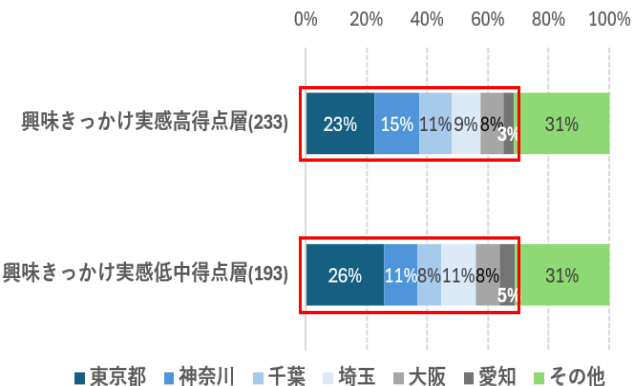


※高得点層は各項目の「非常に当てはまる」「だいたい当てはまる」の上位2選択肢を回答した層、低得点層は「少し当てはまる」～「全く当てはまらない」の中下位の5選択肢を回答した層

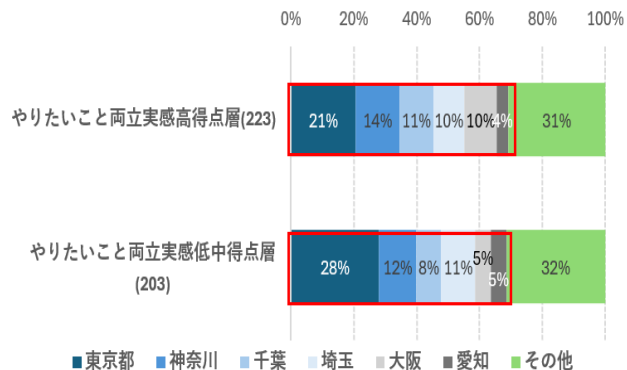
情熱項目の高い子どもの特徴（地域 一般の子どもの調査から）

- 都市部と地方との差はほぼなく、「自己選択実感」のみ都市部でやや多い傾向

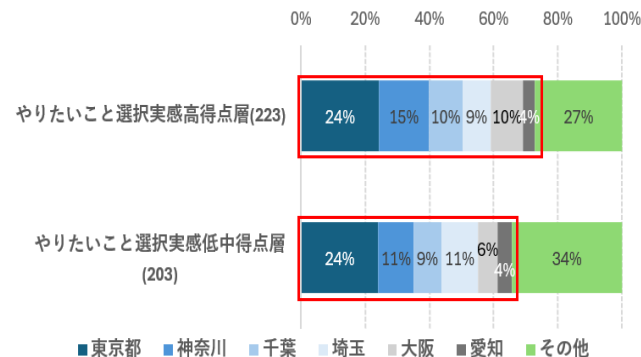
一番好きな活動は色々なことに興味を持つ
きっかけを与えてくれる



一番好きな活動は学校や家でやらないことと両立
している



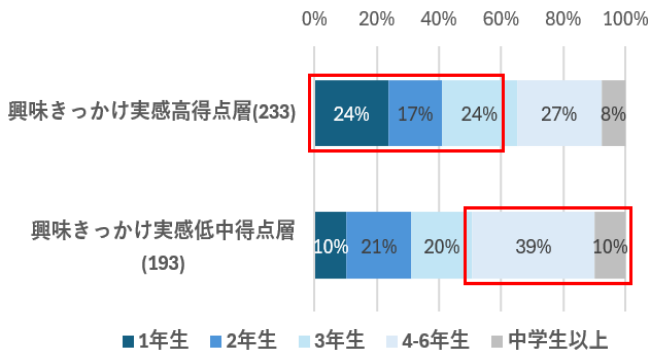
普段から自分でやりたいことを選ぶことができ
ている



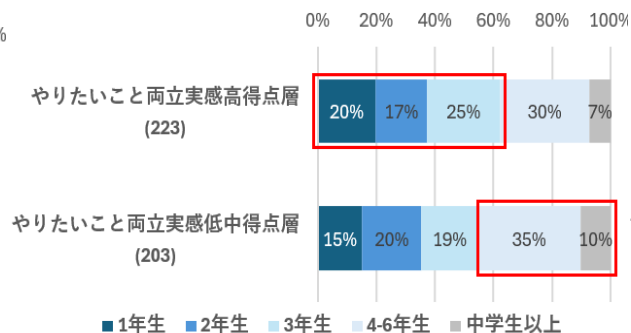
情熱項目の高い子どもの特徴（学年 一般の子どもの調査から）

- 学年（年齢）については、「興味きっかけ実感」や「やりたいこと両立実感」、「自己管理実感」の各項目で、高得点層で低学年の比率が高く、低中得点層で高学年の比率が高くなる傾向。
- つまり、**学年があがると「情熱」が薄れていく傾向**がみられる。

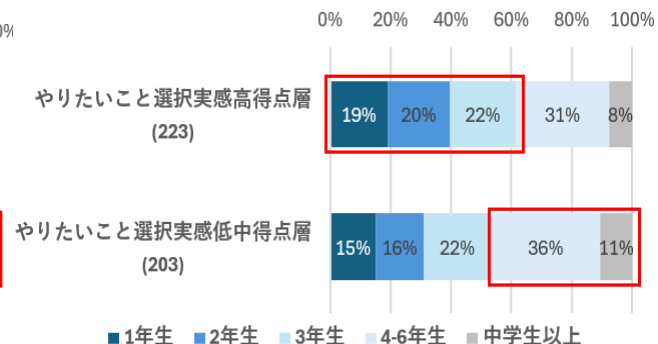
一番好きな活動はいろいろなことに興味を持ちきっかけを与えてくれる



一番好きな活動は学校や家でやらないといけ
ないことと両立している



普段から自分でやりたいことを選ぶことが
できている



日本発達心理学会第37回大会,福岡, 5AM1-PS14, 2026/3/3



子どもの体験活動が学びに結びつく要因の検討

○鎮目美代子（アクトインディ株式会社）・久保尊洋（横浜国立大学）

1.問題

こどもの体験活動が より深い学びに結び付くには？

- ✓ 「体験格差」の拡大や
ゲーム・SNS等の娯楽的活動の比重増大が課題
(公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン, 2023 ; 文部科学省, 2025)
- ✓ 体験活動（興味関心、習い事、日常の外出など）をより深い
学びや成長実感へと繋げる環境・個人要因の解明を必要

2.目的

1. 子どもの体験活動の実態（興味・習い事・外出等）と学び・成長実感との関連を探索的に検討する
2. 体験活動への自発的関与や心理的要因（情熱、基本的心理欲求）が学びの質にどのように影響するかを明らかにする

3.方法

調査対象

科学体験活動に参加した児童生徒117名
(小学低学年70名、小学高学年42名、中学生5名)

調査方法

保護者のスマートフォンを通じたオンライン調査
(小学生以下は聞き取り・代理回答)

質問内容

- ✓ 基礎属性、興味関心、科学体験への自発的参加の有無
- ✓ 体験後の学び・成長実感（4件法）
- ✓ 心理的指標として情熱、内発的価値、基本的心理欲求
(各7件法)

4. 結果

① 興味関心の実態

工作・物作り（53%）や科学・実験（45%）への関心が高い一方、デジタル（ゲーム41%、動画52%）への関心も高い

天文・宇宙・気象・地学	36%	読書（含むマンガ）・文章を書く	44%
恐竜	24%	スポーツや体を動かすこと・スポーツ観戦	41%
ロボット・電子工学・ドローン・VR・プログラミング	35%	楽器を弾く・音楽を聴く	26%
SDGs（環境問題など）	13%	将棋・囲碁・ボードゲーム	16%
乗り物（車・電車・飛行機など）	15%	料理・お菓子作り・手芸	26%
動物・魚類（含む釣り）・昆虫・植物	35%	アニメ	44%
科学・実験（化学・物理など）	45%	ゲーム・eスポーツ	41%
工作・物づくり	53%	動画（YouTubeなど）の視聴・配信	52%
歴史	13%	SNS（TikTok/Instagram/X等）	3%
絵を描いたり見る	37%	その他	3%

② ①の興味関心に対する情熱の状況

「一番好きな活動中にありのままの自分でいられる」が9割超

	5以上合計
一番好きな活動は、学校や家でやらないといけないことも両立している	77%
一番好きな活動は、色々なことに興味を持つきっかけを与えてくれる	85%
一番好きな活動をしているとき、ありのままの自分でいられる	96%

③ 自発的参加による学びの差異

体験への自発参加群は、同伴/勧奨参加群に比べ、新しい発見実感や将来進路参考実感が有意に高い

	自発参加群	同伴/勧奨参加群	
新しい発見実感	3.63 ± 0.49	3.39 ± 0.59	(t(61) = 2.15, p = .036, d = 0.46)
将来の進路参考実感	3.01 ± 0.78	2.53 ± 0.76	(t(74) = 3.21, p = .002, d = 0.63)

④ 心理的要因（情熱など）による学びの差異

情熱が高い*子どもは自己成長意欲が有意に高い

*情熱3項目の平均得点6以上

	情熱得点5以下	情熱得点6以上	
自己成長意欲	5.06 ± 1.19	5.99 ± 1.04	(t(92) = 4.34, p < .001, d = 0.84)
自己選択実現	5.06 ± 1.19	5.10 ± 1.15	(t(94) = 0.17, p = .862, d = 0.03)

興味関心領域が多い子どもは自己成長意欲が高い傾向

(F(2, 114) = 1.97, p = .144)

	1~3個群	4~6個群	7個以上群
自己成長意欲	5.37 ± 1.19	5.49 ± 1.27	5.87 ± 1.09

興味関心領域が多い子どもは自己選択実現が高い傾向

(t(92) = -1.55, p = .124, d = 0.29)

	興味関心6領域以下	興味関心7領域以上
自己選択実現	5.62 ± 1.10	5.96 ± 1.17

5.考察

- ✓ (③より) 科学体験に自発参加できることが、体験活動を通じて新しい学びを促進し、将来の職業選択に影響を与える可能性
 - ✓ (④より) 活動に対する情熱が高いと、体験活動後の自己成長を実感しやすい可能性
 - ✓ (④より) 有意ではなかったが、興味関心領域が多い子どもは活動後の成長実感や自己選択の高い傾向
- ▶ 体験の選択性と主体性が新しい発見や成長といった深い学びを支えることを示唆